

世界の白物・小物家電生産動向を調査

- 4分野32品目の生産実績を集計 -

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 代表取締役 阿部英雄 03-3664-5811)は、05年11月から06年1月にかけて、世界を6地域に分けて主要な白物・小物家電の生産実績と08年までの予測を調査した。参入企業約80社にヒアリング調査を実施して、報告書「2006 グローバル家電市場総調査」にまとめた。

この調査では、白物・小物家電の対象32品目を、「調理関連」、「空調関連」、「家事関連」、「美容/健康関連」の4分野に分け、対象地域を日本、アジア(中国、台湾、韓国、東南アジア、インド、その他)、北米、中南米、欧州(イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、トルコ、その他)、その他の6地域に分けて捉えた。

<調査結果のまとめ>

従来、白物・小物家電の有力グローバルメーカーというと日系メーカーか欧米系メーカーであった。しかし近年、中国企業が、外資系企業OEM生産で培った技術力と大きく成長した経済力によって日系企業や欧米系企業を脅かすほどのグローバルメーカーになりつつある。また、日系メーカーや欧米系メーカーの生産活動も中国で非常に活発に行われている。成熟した日本の白物・小物家電市場では高付加価値機能製品の競争が展開されている。今後の市場規模ではBRICs(ブラジル、ロシア、インド、中国)が注目を集めている。

このように、活況の白物・小物家電市場は多くのグローバルメーカーやローカルメーカーがひしめき、OEM生産やM&A、海外市場参入などのための事業提携も頻繁に行われている。

1. 主要な品目市場

冷蔵庫 05年7,835万台 08年予測8,790万台 05年比12.2%増

家庭用冷蔵庫を対象とする。05年の総生産は、前年比6.3%増であった。普及率が高く、買い替え需要に依存する日本、西欧、北米地域の生産量は横ばいから微減傾向にある。一方、普及率の低いアジアや東欧では需要が増加しており、今後も生産量の伸びが予測される。05年、生産地別に見ると、アジアが4,140万台で全生産量の52.8%を占め、次いで欧州が1,780万台、22.7%、中南米が870万台で11.1%、以下、北米、日本と続く。中でも中国が2,690万台と34.3%を占めている。中国メーカーの生産拡大が著しいことや、日・欧・米メーカーがアジア市場進出のため中国に生産拠点を置いていることが要因である。また欧州は欧州メーカーの生産拠点が散在しているうえ、近年、東欧への生産拠点の移管や、今後の成長を見込んだ生産能力の増強などが行われていることが寄与している。今後、需要拡大と生産コスト、輸送コストの面から中国や東欧、中南米地域への生産拠点の集約が進むと予測される。

メーカー別では、05年のトップメーカーは、Haier(中国)で、650万台、以下Electrolux(スウェーデン)、Whirlpool(アメリカ)、LG EI(韓国)、BSH(ドイツ)、GE(アメリカ)の350万台と続く。東芝は180万台で13位である。

ルームエアコン 05年8,000万台 08年予測8,700万台 05年比8.8%増

家庭用を対象とする。05年の生産量は前年比5.5%増であった。03年以降急速に成長した中国・韓国のメーカーが優位に立っている。日本や北米では市場が成熟しているが、普及率の低い中国、欧州市場は需要の増加が期待される。中国・東南アジア諸国では所得水準の向上により順調に市場が拡大している。欧州は気候による変動が激しく、04年は猛暑で需要が大幅に拡大し、05年は冷夏で大きく落ち込んだ。南欧諸国の伸びは引き続き見込まれる。

05年の生産を地域別に見ると、アジアの生産が85%を占め、そのなかで中国は79%を占めている。今後も引き続き中国や欧州の需要増が見込まれるため、中国の生産が増加すると予測される。

05年のトップメーカーは、LG EI(韓国)で、840万台、以下Gree(中国)、Midea(中国)、Haier、松下電器産業が450万台の5位である。

洗濯機 05年6,800万台 08年予測7,700万台 05年比13.2%増

家庭用洗濯機を対象とする。05年の生産量は前年比6.3%増であった。日・欧・米諸国では普及率が高く買換え需要にとどまる一方、アジア、中南米、東欧地域で新規需要が増加している。生産地別に見

ると、アジアが3,540万台と52.1%を占め、次いで欧州、北米、中南米の順である。中国が生産の中心地で、05年は、2,350万台、全生産の34.6%を占めた。

05年のトップメーカーは、Whirlpool 830万台、以下、Haierで、LG EI、Electrolux、Samsung EI(韓国)と続く。松下電器産業が350万台、6位である。

炊飯器 05年4,250万台 08年予測4,750万台 05年比11.8%増

家庭用の電子炊飯器を対象とする。05年度の総生産は、4,250万台で前年比5.7%増であった。日本市場はIH式が50%を超えて全盛、韓国も拡大中、他のアジア地域ではマイコン式や機械式が主流である。05年の生産を地域別に見るとアジアに集中しており89.9%、特に中国64.0%と日本10.1%となっている。日本では、今後もIH炊飯器の生産割合が高まると見られるので国内生産は、横ばいしないし微減で推移する。アジア地域の生産は中国などの需要増を受けて今後も拡大してゆくと予測される。

メーカー別では、05年のトップメーカーは、Mideaで820万台、次いで松下電器産業が330万台、Galanz(中国)200万台と続く。

コーヒーメーカー 05年6,340万台 08年予測7,200万台 05年比13.6%増

家庭用のものを対象とする。05年度の総生産は、前年比3.9%増であった。欧米以外への浸透と欧米諸国での買換え需要が安定しているため安定した成長が予測される。05年の生産地を見るとアジアが4,840万台で76.3%を占め、次いで欧州が13.4%、中南米が10.3%と続く。日米企業は、生産コストの低い中国や中南米に生産拠点を移管している。今後も中国が生産拠点、生産移管先として成長を遂げるが欧州メーカーのハイエンド品は欧州の生産拠点で生産されると見られる。

メーカー別では、05年のトップメーカーは、Tsann Kuen(中国)で、600万台、以下、Jarden(アメリカ)500万台、Philips(オランダ)350万台と続く。象印マホービンが40万台で10位にある。

食器洗浄乾燥機 05年1,600万台 08年予測2,000万台 05年比25.0%増

家庭用食器洗浄乾燥機、食器洗浄器を対象とする。05年の総生産量は、前年比7.4%増であった。主要需要地域は、西欧、北米である。近年は需要地での生産から、中国や東欧にシフトしつつある。日本では、05年は耐久消費財支出が大画面テレビに向かい前年比約13%の減となった。アメリカでは、住宅市場の活況を受けて、05-06年は前年比7%増と好調で中国からの輸入が急増している。欧州では、東欧諸国の生活向上につれての需要増と生産量の拡大が期待されている。05年の生産は、中国の米国・英国への輸出用の伸びが著しくなっている。

メーカー別では、05年のトップメーカーは、Whirlpoolで、340万台、以下、Electrolux、GEの200万台と続く。松下電器産業は50万台で7位である。

2. 全体市場および4分野の動向

市場全体(32品目)

05年の総生産は前年より5.3%増加している。4分野いずれも伸びたが、特に空調関連機器5品目のうち、扇風機が前年より11.8%増(1億5,200万台)、ルームエアコンが5.5%増(8,000万台)と著しい伸びを見せた。今後も、空調関連機器は08年まで年平均8%近い伸びが予測される。

05年現在、32品目の生産量はアジアが世界の75.3%を占め、9億7,800万台である。08年に向けてさらにアジアに集中し11億4,800万台、80%に近づくと予測する。

(1)調理関連機器分野(13品目)

05年は前年度に比べ4.4%増になっており、今後も前年比3%以上の伸びが続くと予測される。地域別の生産ではアジアが3億2,197万台で73.1%を占め、次いで欧州が5,690万台で12.9%、以下は中南米が5.9%、北米が4.4%、日本が3.1%と続く。

この分野の製品は食文化と関係が深く、製品によって大きく需要地域が異なっている。例えば炊飯器やジャーポット、ホットプレート/グリルなべなどアジア発祥の製品は、現在もアジアが中心。参入メーカーも日本、中国といったアジア系が多く生産地もアジア地域にとどまり、特に生産コストなどが安価な中国が大半を占めている。

一方、コーヒーメーカーやトースター、ジューサー/ミキサーなど欧米発祥の製品は、需要地、生産地ともに欧米が中心であった。しかし近年、欧米諸国以外に食の欧米化が著しく進んで需要が拡大し、日本や中国などアジア系参入メーカーも増えつつある。またこれら製品は小型軽量であること、また世界的に日用品化が進んでいることなどから、低コストの中国へ生産地シフトが進んでおり、今後もアジアが生産の中心であると予測される。

(2)空調関連機器分野(5品目)

05年は前年比9.4%増となっており、今後も前年比7%増以上と4分野の中で最も高い伸びが予測される。近年、気候変動の影響などで世界的に新規需要が拡大しているルームエアコンや、アジア地域で需要が伸びている扇風機が牽引役となり、今後も拡大が予測される。

05年の地域別生産実績は、アジアが最大で2億3,305万台と全体の89.5%を占め、日本、北米、

中南米、欧州はそれぞれ全生産量の3%を下回った。

扇風機は中国企業による国内生産が圧倒的に多く、ルームエアコンも中国、韓国、日系企業がメインとなっていることから、生産地は中国を中心としたアジア地域になっている。今後、ルームエアコンは普及率が低い欧州、北米、中南米において若干の生産増が期待されるものの、中国がメインの生産地である動きは変わらない。また扇風機は現在以上に中国への依存度が強まると見られ、一層集中が進むと予測される。

(3)家事関連機器分野(4品目)

05年は前年比3.7%の伸びを示した。普及率の高い日・欧・米諸国で買い替え需要が好調なことや、それ以外の地域では新規需要が伸びることから今後も安定した成長が予測される。

生産地域は、アジアが1億5,695万台で全生産量の62.4%を占め、次いで欧州が4,580万台で18.2%、北米が8.9%、中南米が7.1%、日本が3.3%と続く。

洗濯機、衣類乾燥機、掃除機の3品目は需要地生産が基本となっており、各地域で需要に応じた生産が行われている。その中でもアジア地域での生産量が多数を占め、今後も拡大すると見込まれる。それは中国やインドをはじめ、アジア地域の人口増による需要増が見込まれるため、多くの参入メーカーが生産拠点を置いているからである。アイロンは小型軽量であることから生産コストの安価なアジア、東欧、中南米が主要な生産拠点となっている。特に中国の現地メーカーは数百社にものぼるといわれている。OEM生産を中心に台頭しており、今後は東欧や中南米での生産も中国へ移管されると考えられ、中国を含むアジアでの生産比率がより高まると予測される。

(4)美容/健康関連機器分野(10品目)

05年は、前年比4.8%増であった。身の回りの必需品として需要が安定しており、また近年世界的に健康への関心が高まっていることなどが、安定した成長を支えている。08年に向けても年平均4%程度の成長を続けると予測される。

生産地別に見ると、アジアが2億6,565万台で全生産量の76.8%を占め、次いで欧州が16.2%、以下は北米が3.2%、中南米が2.1%、日本が1.6%と続く。小型軽量で、世界的に日用品化していることから、生産コストの安価な中国へ生産拠点を移管したり、中国や台湾の現地メーカーへのアウトソーシングを行うケースが増えている。ただメンズシェーバーでは上位を占める Philips や Gillette、電子体重計の老舗メーカーなどを中心に、高級機種は自国生産を維持し、低価格品のみ中国生産や、中国現地メーカーのOEM生産に依存するケースも見られる。今後はこうした傾向が一層強まると考えられ、日本、欧米、北米、中南米での生産も残しながら、アジアでの生産量はますます高まっていくと考えられる。

3. 調査の概要

<調査方法>

当社専門調査員による参入企業、業界関連企業、関連団体などへのインタビュー形式によるヒアリングをベースに、各種統計データ、その他の公開情報、既存刊行資料を参考にして分析した。

<調査実施期間> 2005年11月～2006年1月

<調査対象> 調査対象32品目の関連企業 約80社

- (1) 調理関連機器 13品目
- (2) 空調関連機器 5品目
- (3) 家事関連機器 4品目
- (4) 美容/健康関連機器 10品目

<個別品目の調査項目>

- 1. 市場概況
- 2. 地域別生産実績とその予測推移(2004～2008年度予測)
- 3. メーカー別国別生産量(2005年)
- 4. 主要メーカーの動向

以上

資料タイトル	: 「2006 グローバル家電市場総調査」
体 裁	: A4判 248頁
価 格	: 97,000円 (税込み101,850円)
調査・編集	: 富士経済 大阪マーケティング本部 第三事業部グローバルチーム TEL 06-6228-2020(代) FAX 06-6228-2030
発 行 所	: 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL 03-3664-5811(代) FAX 03-3661-0165 e-mail: koho@fuji-keizai.co.jp URL: http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ http://www.fuji-keizai.co.jp

*****本件に関するお問い合わせは下記までお願いします。*****

富士経済グループ 広報部 TEL 0120-156-711 03-3664-5697